

# 地域医療連携室ニュース

発行 公立阿伎留医療センター

編集 地域医療連携室

TEL 042(558)0321

FAX 042(550)5190

当院は、急性、亜急性期疾患を担う中核病院として、近隣医療施設との密接な連携を保ち住民と病む人が満足できる安心、安全、かつ納得の頂ける質の高い医療サービスを提供できる医療センターを目指しております。ご指導のほど宜しくお願い致します。

4月は医師の交代等 がありまして、ご迷惑をおかけ致します。外来担当表にてご確認のうえ、ご予約等お願い致します。

前回から「地域医療連携ニュース」では、各科の主要病態・症状の治療内容を担当医師から紹介させて頂いております。今回は、関節リウマチです。

## 関節リウマチ - 最近の話題 -



関節リウマチは中年以降の女性に多く発病し、全身の関節が障害される疾患です。障害される関節は手首、手指に多いのですが、頸椎を含め、いかなる関節も障害されます。通常、左右対称性の関節の痛みと関節腫脹を伴います。

適切な治療が早期にされない、関節の破壊が進行し変形、脱臼、癒合などにより生活に大きな支障をきたすことになります。

副院長 西成田 進 医師 間質性肺炎、リウマチ性弁膜症など関節外症状の合併もあり、また、長期間にわたる持続的な炎症による消耗で、リウマチの患者さんは平均的な女性よりも短命であることも報告されております。

これまで関節リウマチの血清診断には、リウマトイド因子(RF)が利用されてきました。しかし、最近、RF よりも特異的、感度の高い「環状シトルリン化蛋白に対する抗体(CCP 抗体)」が、従来の RF よりも診断的価値が高いことがわかり利用されるようになりました。この検査は、「リウマチが疑われる」場合のみ検査ができ、診断確定された関節リウマチには保険適応がないので注意が必要です。

リウマチの活動性についてはこれまで炎症反応(赤沈、CRP)とともにRFの値が利用されてきましたが、最近では RF よりもより鋭敏に活動性を反映するものとしてマトリックスメタロプロテアーゼ(MMP)-3の検査が利用されています。これは炎症性の滑膜細胞から産生される蛋

白分解酵素の一つで、CRP とほぼ同じように変動しますが、CRP が全身的な炎症を反映するのと違い、滑膜に限定された炎症をより鋭敏に反映するといわれています。

リウマチによる関節の破壊はリウマチの早期から始まります。そしていったん破壊された関節病変は「原則」としてもとに戻りません。そのような非可逆的变化をおこさせないために以下のような治療の原則が推奨されています。

1) 抗リウマチ薬 (DMARD) の併用なしに抗炎症鎮痛薬 (NSAID) の長期間の治療はおこなわない。2) できるだけ早期に、できれば 4 か月以内に NSAID の使用を開始する。3) 最も信頼性のある DMARD はメトトレキサート (MTX) である (ただし、日本においては保険適応上「他 DMARD の効果がない場合に使用するという“しばり”がある)。4) MTX の効果不十分例では「生物学的製剤」の使用を考慮する。

生物学的製剤とは、関節リウマチの発症に関わる「炎症性サイトカイン」を抑制するために、遺伝子工学的に開発された一連の薬剤をいいます。現在 (平成 22 年 2 月)、TNF を阻害する薬剤 3 種、IL - 6 を阻害する薬剤が 1 種類認可、保険適用を受けて利用可能になっています。点滴、皮下注射、投与間隔など製剤によって異なりますが、いずれも MTX で効果不十分な RA にもよく効きます。一部の生物学的製剤では、寛解到達後薬剤を中止できることや、長期的には関節破壊がむしろ改善することも報告されております。

一方、サイトカインを抑制することは、強力な免疫抑制を意味しますので、その投与前、投与中には感染に対する十分な注意が必要となります。またどの生物学的製剤も高額な薬剤ですので、患者さんと相談の上、投与法の違いによる通院の条件なども考えて選択することになります。

生物学的製剤の適応になるような患者さんがおられましたらご相談ください。

#### 4月の医師の人事異動

採用 4月1日付

常勤 呼吸科医長:相澤 豊昭

外科医長:松尾 定憲

整形外科:間世田 優文

救急科:河野 大輔

非常勤 呼吸器科:和久田 一茂

脳外科:平岩 直也

消化器科医長:太田 壮一郎

リハビリテーション医長:荒尾 敏弘

脳外科:笹森 寛生

眼科:伊東 真知子

呼吸器科:福住 宗久

歯科口腔外科:酒井 康雄

退職 3月31日付

常勤 消化器科:小林 駿

外科:平野 智寛

非常勤 眼科:國田 大輔

口腔外科:山下 千穂

脳外科:池田 俊貴

整形外科:沼口 俊平

五月女 典久

山田 幸

皮膚科:何川 宇啓

救急科:小松 智英

高橋 清喜

#### 4月の医局講演会、講演会のお知らせ

日 時： 4月26日 (月) 19時15分～20時30分

会 場：地下1階 講堂

演 題：麻酔科の最近のトピックス

講 師：当院麻酔科科長 本間 周淳

参加費： 無料

#### 2月の紹介患者数をご報告致します

FAXによる紹介は122件、紹介状持参による紹介は255件、合計377件でした。CT・MRIの検査のFAX紹介は59件でした。ご紹介誠にありがとうございました。

なお、FAXの申込時間は、『FAX受診申込書』で、9時から16時30分になっております。

公立阿伎留医療センター宛専用の情報提供書、封筒等用意しておりますので、御用命の節は、下記担当者までご連絡をお願い致します。また、地域医療連携に関するお問い合わせについても、担当者がお受け致しますのでご連絡下さい。

地域医療連携室 担当責任者：茅野和子 電話番号 042-558-0321 内線2123